

平成30年度事業報告書  
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

1 事業の成果

① これまで自殺対策事業で活動の土台を築いてきたが、今年度は新たに居住支援法人の活動にも取り組んだため、活動体制も活動力も発展し、とりわけ市民を助ける安否確認活動が充実した。

② 活動メンバーも事務所に常駐者を置くことが出来るようになり、あわせて安否確認で地域活動を広げるメンバーも充実し、活動体制を確立することができた。特筆すべきは、家主や不動産屋の皆さんが活動をリードするようになり、活動の質を変え、「市民が市民を助ける」活動になった。

③ 相談件数は101名、生活保護受給28名、住居確保62名、保証人確保46名、生活支援(安否確認)97名、延べ回数594回、このうち刑余者救済は37名でした。

2 事業の実施に関する事項

(1)特定非営利活動に係る事業	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者範囲人数	事業費金額
定款事業名 ①サ再犯させない事業 ②シ死なさない事業 ③ス住まいを確保する事業 ④セ生活を確保する事業 ⑤ソ相談を解決する事業	左記事業を一体として取り組み 貧困者・刑余者などを救済する	平日午前10時～正午。 但し必要に応じて随時	事務所。必要に応じて高知市内。さらに県下。	常時活動するメンバー22名。 行政書士を5名含む。	受益対象者は貧困者・刑余者など97人 支援回数延べ594回。	(千円) 4987

(2)その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額(千円)
	実施しなかった				

3 事業の具体的な成果と課題

(1)活動の体制と結果

①常時活動するメンバーは年度末現在22名です。行政書士5名を含みます。事務局長、情報管理、渉外の3名が常駐してくれて開店時間が整い、理事長が時間外の相談にも応じているので、相談者の都合に沿った相談体制になりました。

②「はすのは」の業務は、現在右図のような体制で取り組んでいます。

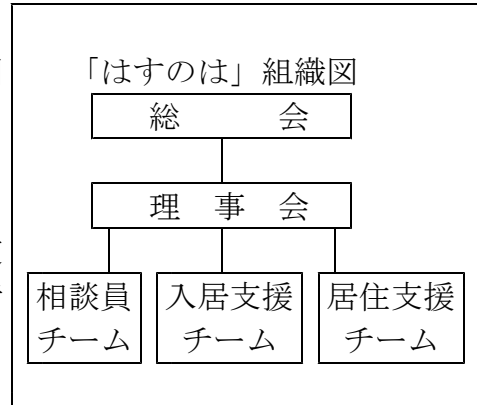
相談員チームは、相談全体を受け、生活保護申請同伴など対外的な業務も担当しています。

入居支援チームは、住居探し、下見、契約、保証団体事務処理等を担当しています。

居住支援チームは、安否確認と生活支援活動を担当しています。

このほかに毎月1回「活動交流会議」を開催し、支援対象者の状況把握と対策を中心とした検討協議を行っています。

③相談件数は101名、生活保護受給28名、住居確保62名、保証人確保46名、生活支援(安否確認)97名、延べ回数594回、このうち刑余者救済は37名でした。



## (2)活動が発展した原因

①「はすのは」が活躍できる原因の一つは、率先して入居者の気持ちを和らげ安心して暮らせるように働きかけ、他の家主の契約や入居を助けるために走り回ってくれるなど、家主や不動産屋が「はすのは」の一員として奮闘していることです。さらにこの支えは、信用を広げて新しい家主が参加する結果にもつながっています。

②「はすのは」が活躍できる原因のもう一つは、弁護士や保護観察所が相談者を次々と紹介してくれ、福祉事務所が生活保護申請を正しく受け入れるなど、官署団体が市民寄りの立場をとってくれていることです。

福祉事務所から相談者を紹介され、そのために新しい不動産屋とつながりが出来、新しい住居が確保でき、これらの話を聞いたセンターが相談を持ち込むという連鎖が広がるという事例も生まれています。「はすのは」は年度初めに定款を改定し、活動場所を高知市から高知県に広げましたが、実際には法テラスや福祉事務所の依頼を受けて活動場所を広げてもらった結果になっています。

紹介者は弁護士が11件といちばん多く、不動産屋、福祉事務所や役所、女性とか障害者などのセンター、司法関係者、病院などとなっています。

③「はすのは」は2つの事業指定を受け、補助金も頂いています。「自殺対策事業」では今年度も自殺者を出さないで終わりました。「居住支援法人」の業務は、これまでと同じ業務の延長でしたが、社会事業としての意義を自覚しながら活動できるようになりました。補助金は、「自殺対策事業」は家賃や電話料など固定経費、活動の土台を支えてもらっています。「居住支援法人」は、「はすのは」の活動の柱である安否確認活動を大きく展開する力になってくれました。

④今年度から、活動の充実を図るため、北九州市に本部を置く「抱撲(ほうぼく)」に依頼し、指導援助を受ける契約を交わし、交流を開始しました。単に事業内容を学ぶと

いうよりは貧困者等を救済する政策を学んで行くことにします。

### (3)活動の問題点

①強制退去を5件出しました。いずれも飲酒して騒ぎ近所からの苦情が出て強制退去させたものです。節酒の要請には応えてくれず、手の打ちようが無い問題です。

②再犯を4件出しました。生活支援には万全を期したつもりですが通じませんでした。

③失踪を1件出しました。年金自立生活直後でした。担当者が探し回ってくれて県下某市で発見しましたが復帰を拒んでおり、病状悪化の様で引き続き見守っています。

## 4 今年度の救済・支援状況

(1)「はすのは」が生活保護受給を実現し、住居も保証人も確保し、生活支援(安否確認など)を行っている、4点セットの事例は14件でした。

AHさんは「本当に助かりました。こんなに何もかもしてくれるところが有るとは知りませんでした。」と言ってくれました。

ALさんは所持金を入居費用にするはずが飲み屋で使ってしまい、どうするつもりか追求されると病状で激昂して飛び出してしまいました。その後は不動産屋さんが一生懸命かばい、気持ちを落ち着かせて普通の暮らしが出来るようにしてくれました。

AKさんは、「はすのは」のNさんが説得してホームレスをやめ、自力で生活できるようになりましたが、数ヶ月経って失踪してしまいました。メンバーが捜し回り、市外の公園で見つけました。説得しても復帰してくれませんでした。病状が悪化して心配なのでNさんは見守りを続けています。

個別記録 略

以 上